

第15回 木曾三川下流域自然再生検討会

【令和4年度のモニタリング評価結果
及び令和5年度モニタリング計画】

令和5年1月

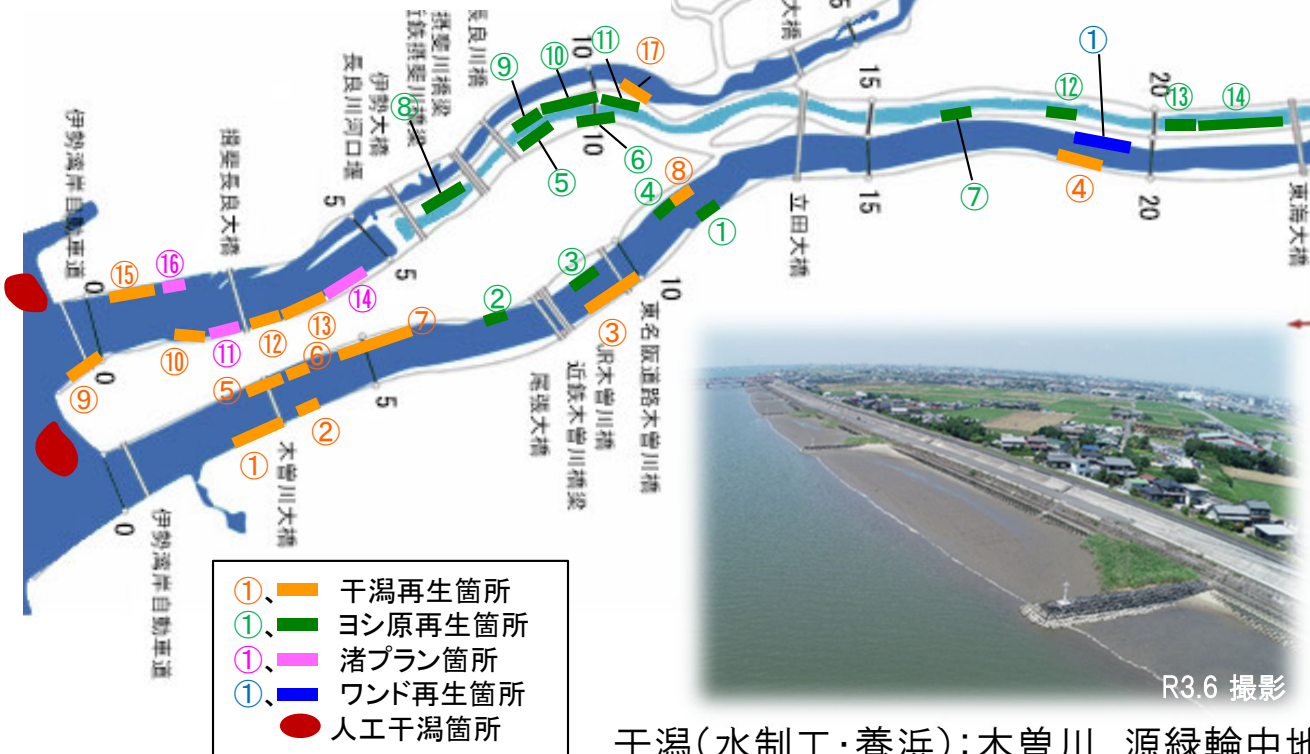
国土交通省 木曾川下流河川事務所

自然再生整備の実施状況

● 令和4年3月時点で、当面の自然再生メニューである 干潟再生(17箇所)とヨシ原再生(14箇所)の他、ワンド再生(1箇所)を実施している。

R4.8 撮影

ヨシ原(木かご・木柵+盛土(ヨシ根土))
:長良川 千倉地区



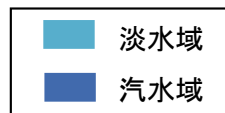
R3.6 撮影

干潟(水制工・養浜):木曾川 源緑輪中地区

整備内容	No.	地区名	施工年
干潟再生	①	源緑輪中地区	H19-20
	②	雁ヶ地地区	H22-23
	③	五明地区	H16-20
	④	葛木地区	H29-
	⑤	横満蔵地区	H24-28
	⑥	鎌ヶ地地区	H18
	⑦	松ヶ島地区	H20-21
	⑧	西川地区	H29-H30
	⑨	浦安地区	H9、H15
	⑩	松蔭地区	H22
	⑪	白鷄地区	H5-7
	⑫	白鷄福吉地区	H15-17
	⑬	福豊地区	H23-H26
	⑭	大島地区	H6-7
	⑮	立田地区	H26-R2
	⑯	城南地区	H5-7
	⑰	背割堤地区	R1-

整備内容	No.	地区名	施工年
ヨシ原再生	①	立田地区	H20
	②	東殿名地区	H29-
	③	押付地区	H22
	④	小島地区	-
	⑤	千倉地区	H20-21
	⑥	上坂手地区	H20
	⑦	背割堤(後江)地区	H27
	⑧	上之輪地区	H10-14
	⑨	築戸地区	H20
	⑩	下坂手地区	H15、H21
	⑪	背割堤(下坂手)地区	H29-
	⑫	外浜地区	H3-6
	⑬	長瀬地区	H9
	⑭	駒ヶ江地区	H10-11

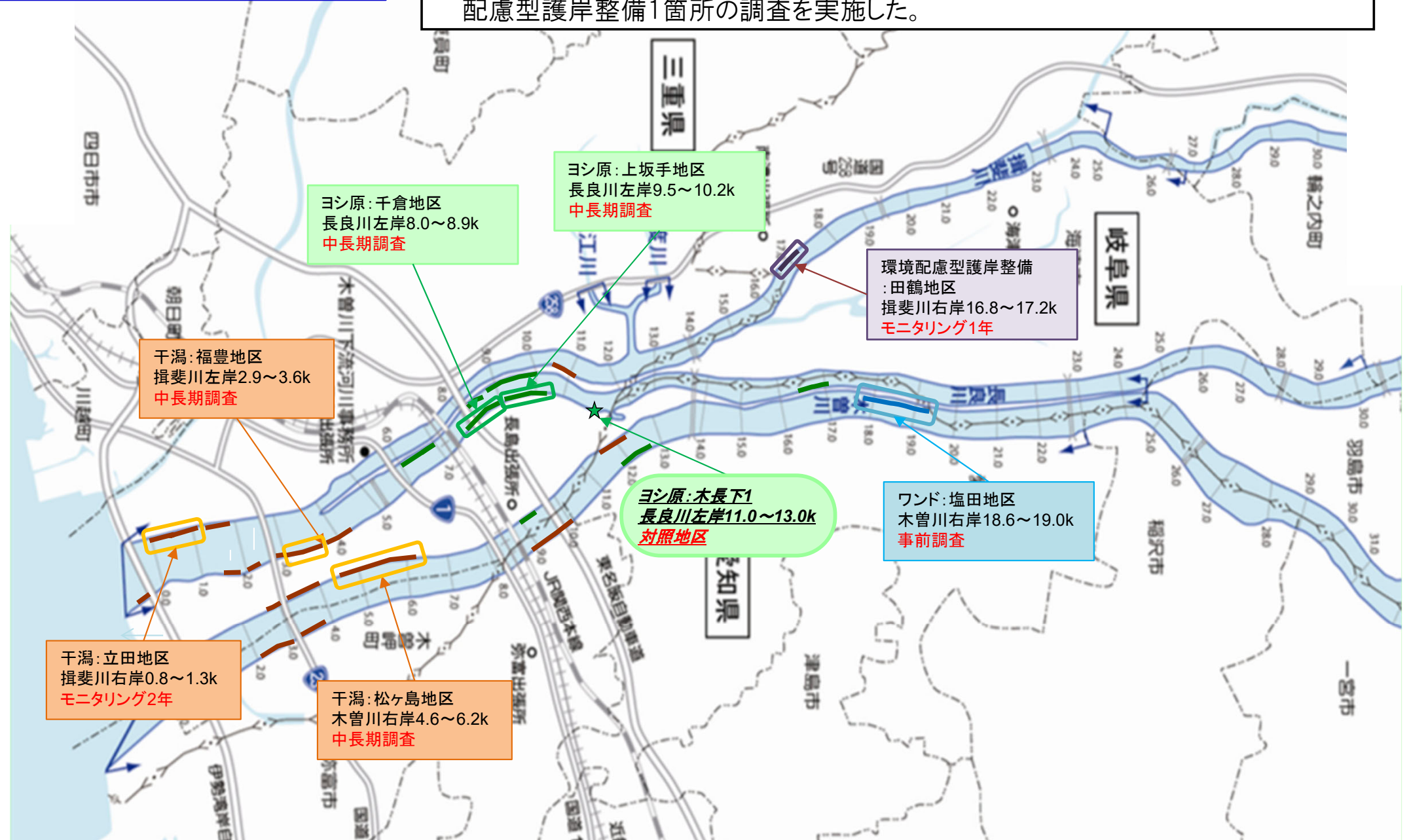
整備内容	No.	地区名	施工年
ワンド再生	①	塩田地区	R3



令和4年度 モニタリング箇所

令和4年度のモニタリング箇所

- 令和4年度は干潟再生3箇所、ヨシ原再生2箇所、ワンド再生1箇所の調査及び環境配慮型護岸整備1箇所の調査を実施した。



令和4年度 モニタリング実施項目

- 自然再生事業実施箇所について、自然再生計画書に基づいたモニタリングを実施しており、令和4年度は下記のとおり実施した。

令和4年度の調査地区・調査項目・調査時期・調査回数

調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	哺乳類	鳥類	ヨシ生育調査		
ヨシ原	調査時期	—	—	8月	水文水質観測のデータ等を活用	8月	8月	8月	8月	11月	6～7月	8月	
	事後調査	中長期	上坂手地区	長良川左岸 9.5～10.2k	1回	—	1回	—	—	—	—	1回	
		中長期	千倉地区	長良川左岸 8.0～8.9k	1回	—	1回	—	—	—	—	1回	
		—	対照地区	長良川左岸 11.0～13.0k	1回(地盤高のみ)	—	1回	—	—	—	—	1回	
調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	哺乳類	鳥類	ヨシ生育調査		
干潟	調査時期	—	—	5月	水文水質観測のデータ等を活用	8月	8月	8月	干潟再生地区は該当しない	干潟再生地区は該当しない	9月	干潟再生地区は該当しない	
	事後調査	中長期	松ヶ島地区	木曾川右岸 4.6～6.2k	1回	—	—	1回	1回	—	—	1回	—
		中長期	福豊地区	揖斐川左岸 2.9～3.6k	1回	—	—	1回	1回	—	—	1回	—
		2年	立田地区	揖斐川右岸 0.8～1.3k	1回	—	—	1回	1回	—	—	—	—
調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	哺乳類	鳥類	ヨシ生育調査		
ワンド	調査時期	—	—	—	7～8月	8月	6月	8月	—	ワンド再生地区は該当しない	ワンド再生地区は該当しない	ワンド再生地区は該当しない	
	事前調査	塩田地区	木曾川右岸 17.8～19.0k	—	1回(連続観測1ヶ月、鉛直計測1回)	1回	1回	1回	—	—	—	—	
調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	哺乳類	鳥類	ヨシ生育調査		
護岸整備	調査時期	—	—	8月	水文水質観測のデータ等を活用	—	8月	8月	—	—	—	—	
	事後調査	1年	田鶴地区※	揖斐川右岸 16.8～17.2k	1回(UAV撮影のみ)	—	—	1回	1回	—	—	—	

※田鶴地区は環境配慮型の護岸整備事業を実施しており、自然再生計画書のモニタリング項目とは異なる対応を行っている。

モニタリング項目及びモニタリング結果の評価内容

- 自然再生計画書(H24.3)及び木曾三川下流域自然再生計画運用書(案)(R3.3)に記載されたモニタリング項目について調査を行った。

▼ヨシ原再生箇所でのモニタリング実施項目

分類	調査・評価項目	評価内容
場の形成	測量(地盤高)※1	ヨシの生育地盤高の把握
	水質(塩化物イオン、DO)※2	生物の基礎的な生息環境条件の把握
	底質(粒度組成、COD、全硫化物)※1	ヨシ原周辺の基盤環境の把握
	基盤としてのヨシの生育、植物相、水面との比高についての調査	ヨシの生育分布、生育する植物からヨシ原としての評価
低次生物	貝類、カニ類、エビ類等に着目した底生動物調査	緩流環境、汽水域を好む底生動物
	トンボ類の再生産(幼虫)に着目した昆虫類調査	ヨシ原と水辺に依存し繁殖する昆虫類
高次生物	フナ類、メダカ、タナゴ類に着目した魚類調査	ヨシ原周辺の緩流環境で繁殖する仔稚魚、隠れ場として利用する成魚
	オオヨシキリの生息密度に着目した鳥類調査	ヨシ原に依存して繁殖する鳥類
	カヤネズミの営巣密度に着目した哺乳類調査	ヨシ原に依存して繁殖する哺乳類

▼干潟再生箇所でのモニタリング実施項目

分類	調査・評価項目	評価内容
場の形成	測量(干潟分布、勾配)	生物の生息基盤としての物理的安定性を評価
	水質(塩化物イオン、DO)※2	生物の基礎的な生息環境条件の把握
	底質(粒度組成、COD、全硫化物)	生物の基礎的な生息環境条件の把握
生低次	ヤマトシジミ等貝類、カニ類、ゴカイ類に着目した底生動物調査	干潟に依存して繁殖、餌場等として利用する底生動物
高次生物	ハゼ類、カレイ類に着目した魚類調査	干潟に依存して繁殖、隠れ場、餌場等として利用する魚類
	シギ・チドリ類、サギ類に着目した鳥類調査	干潟の生物を餌として依存する鳥類

※1:ヨシ原再生地区における測量及び底質は過年度の委員指摘を踏まえ実施しており、ヨシ原の形成状況の考察を行うために実施している。再生箇所の個別事情に応じ、上記のモニタリング計画から適宜変更して調査を実施している。

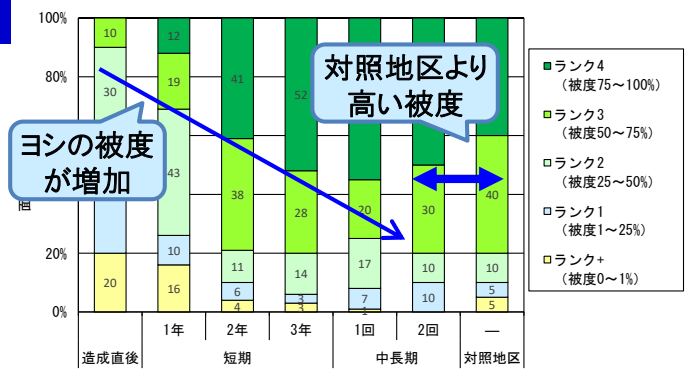
※2:水質は事前調査のみの実施であるため、評価対象外とする。

モニタリング評価の考え方

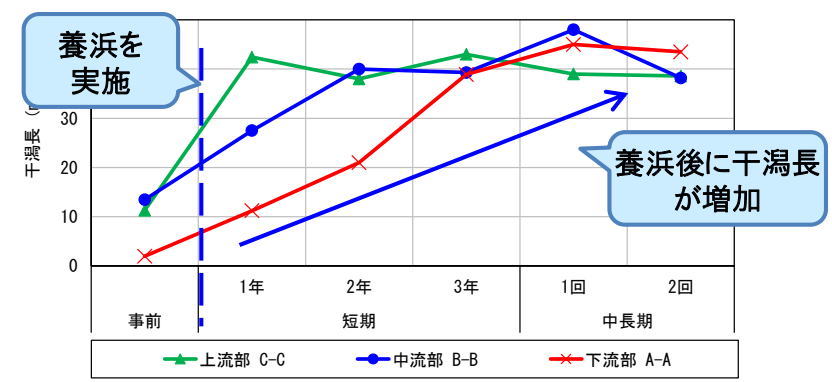
■「木曾三川下流域自然再生計画書」(平成24年3月)及び「木曾三川下流域自然再生計画運用書(案)」(令和3年3月)に記載されている評価内容を踏まえ、評価を行った。

◆ヨシ原／干潟の形成状況の評価

- ヨシ原の形成状況は主に被度(ランク)の変化から評価した。
- 干潟の形成状況は主に河川横断方向の干潟長の変化から評価した。



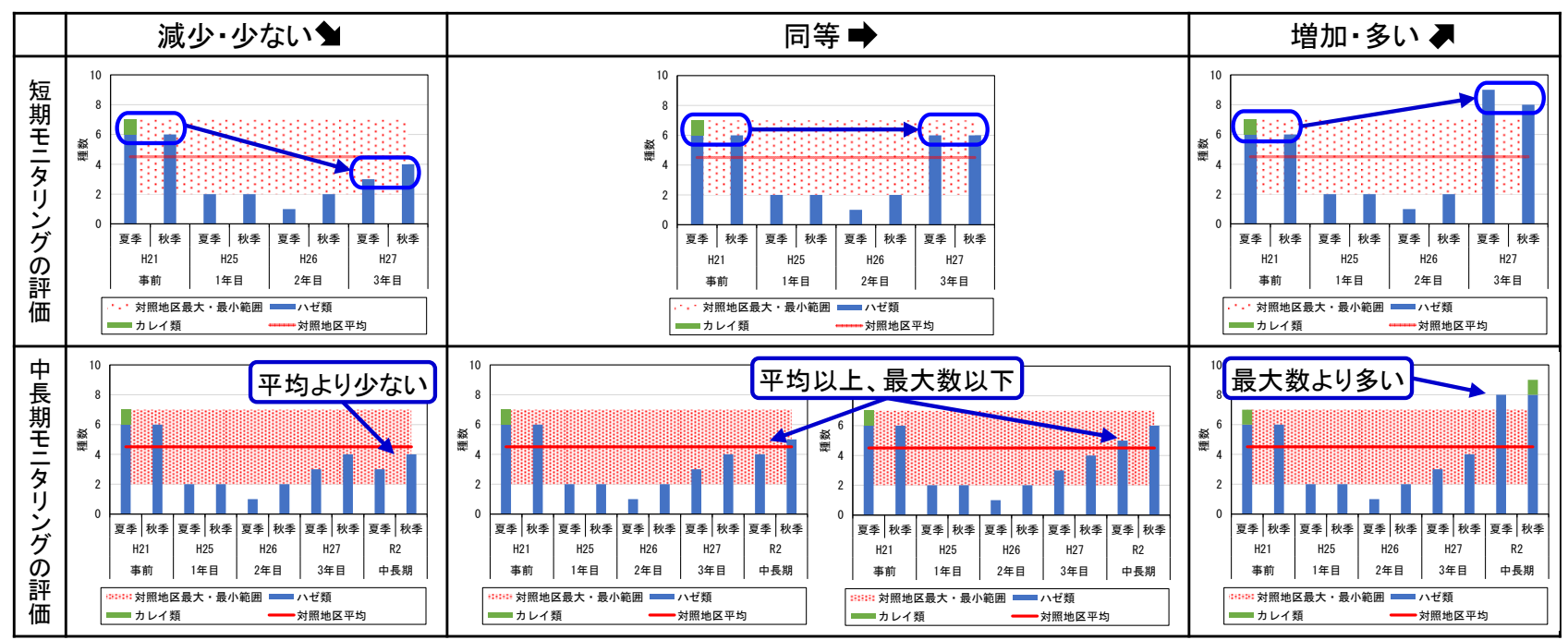
▲ヨシの被度(ランク)の経年変化(イメージ)



▲干潟長の経年変化(イメージ)

◆生物の生息状況

- 魚類、陸上昆虫類などの複数種が指標の場合は種数の増減で評価した。
- ヨシ原のカヤネズミやオオヨシキリ、干潟のヤマトシジミなどは生息密度で評価した。



モニタリング評価の考え方

- **短期モニタリングに該当する再生地区**は、**事前調査と比較**し、再生地区におけるヨシ原／干潟の形成状況を評価した。また、低次生物(底生動物、昆虫類)、高次生物(魚類、鳥類、哺乳類)の種数や生息密度の増減も併せて評価した。
- **中長期モニタリングに該当する再生地区**は**対照地区と比較**し、目標の達成度を評価した。

▼評価基準

場の形成	↗									→									↘									
低次生物	↗			→			↘			↗			→			↘			↗			→			↘			
高次生物	↗	→	↘	↗	→	↘	↗	→	↘	↗	→	↘	↗	→	↘	↗	→	↘	↗	→	↘	↗	→	↘	↗	→	↘	
モニタリング評価	★4つ	★4つ	★3つ	★4つ	★3つ	★3つ	★3つ	★3つ	★2つ	★4つ	★3つ	★3つ	★3つ	★3つ	★2つ	★2つ	★2つ	★2つ	★1つ	★3つ	★2つ	★2つ	★2つ	★2つ	★1つ	★2つ	★1つ	★1つ

注: 事前調査が実施されていない場合、最も古い調査と最新の調査を比較した。

中長期調査の干潟の形成状況の評価は、対照地区の測量結果が存在しないため、事前調査と比較して評価した。

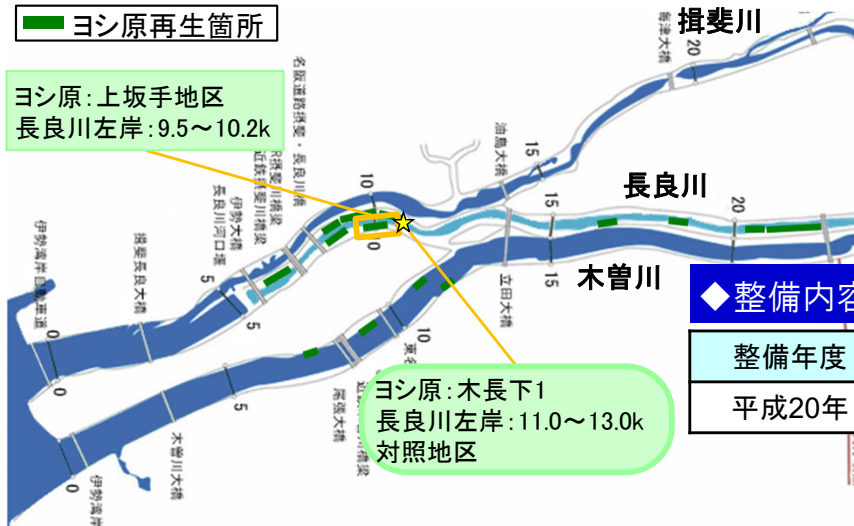
底質調査は分析項目(泥分率、強熱減量、COD、全硫化物)の増減を評価した。また、参考として環境基準、水産用水基準との比較結果についても整理した。

▼モニタリング評価内容

モニタリング評価	評価内容
★★★★★	場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は増加しており、生物に増加がみられる。 場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は変化ないが、低次・高次生物ともに増加している。
★★★★	場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は増加しているが、生物に変化がない、もしくは低次、高次生物どちらかに減少がみられる。 場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は変化はなく、低次・高次生物ともに変化が見られない、もしくは低次、高次生物どちらかに増加がみられる。 場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は減少しているが、低次・高次生物ともに増加がみられる。
★★★	場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は減少しているが、生物に変化がない、もしくは低次、高次生物どちらかに増加がみられる。 場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は変化はないが、低次、高次生物どちらかに減少がみられる。 場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は増加しているが、低次・高次生物ともに減少がみられる。
★	場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は減少しており、生物に減少がみられる。 場の形成について、ヨシ被度/干潟長等は変化はないが、低次・高次生物ともに減少がみられる。

ヨシ原再生箇所の評価(上坂手地区) - 中長期モニタリング -

上坂手地区(H20-21施工)



◆調査年度

事前	短期	中長期
H19	H22-H24	H29、R4

◆整備内容

整備年度	整備内容
平成20年	木かご・木柵16基+盛土(ヨシ根土)



比較対象	【参考】事前調査との比較		中長期モニタリングの評価		
場の形成状況					
ヨシ(被度)	▼	短期1年と比較して、被度は減少。	▼	対照地区よりも被度は低い。	
生物の生息状況(H29年度調査結果)					
低次生物	底生動物(カニ、エビ、貝類)	➡	事前調査(9種)と中長期(10種)で同等。	➡	対照地区(約10種)と同等。
	昆虫類(トンボ類)	➤	短期2年(6種)から中長期(9種)で増加。	➤	対照地区(約7種)より多い。
高次生物	魚類(フナ、メダカ、タナゴ類)	➡	事前調査(タナゴ類1種)と中長期(フナ類1種)で同等。	➡	対照地区(約2種)と同等。
	哺乳類(カヤネズミ)	▼	短期3年にカヤネズミが確認されたが、中長期では確認なし。	—	—
	鳥類(オオヨシキリ)	▼	短期2年にオオヨシキリが確認されたが、中長期では確認なし。	—	—
評価	★★		★★		

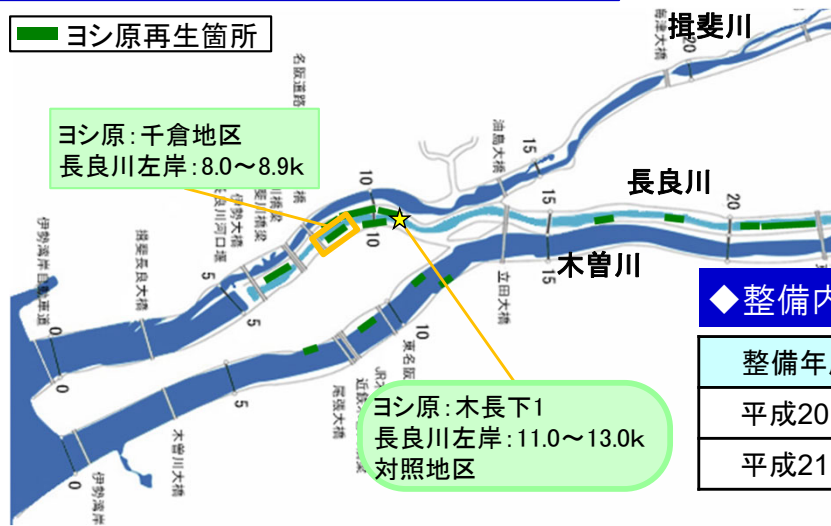
■評価

- 【場の形成状況】
 - 対照地区と比較してヨシの被度が低い。
- 【生物の生息状況(H29年度調査結果)】
 - 短期に一度カヤネズミ、オオヨシキリが確認されて以降、中長期では確認されていない。
 - 対照地区と比較して、昆虫類の種数は多いが、魚類、底生動物の種数は同等。
 - 以上のことから、生物の生息場として十分に機能していないと考えられる。

■ R4年度調査結果

ヨシ原再生箇所の評価(千倉地区) - 中長期モニタリング -

千倉地区(H20-21施工)



◆調査年度

事前	短期	中長期
H20	H22-H24	H29、R4

◆整備内容

整備年度	整備内容
平成20年	木かご・木柵16基+盛土(ヨシ根土)
平成21年	木かご・木柵7基+盛土(ヨシ根土)



比較対象		【参考】事前調査との比較		中長期モニタリングの評価	
場の形成状況					
ヨシ(被度)		➡	短期1年と比較して、被度、密度が増加。	➡	対照地区より被度、密度が高い。
生物の生息状況(H29年度調査結果)					
低次生物	底生動物(カニ、エビ、貝類)	➡	事前調査(夏季11種)と中長期(夏季12種)で同等。	➡	対照地区(約10種)と同等。
	昆虫類(トンボ類)	➡	短期2年(6種)から中長期(10種)で増加。	➡	対照地区(約7種)より多い。
高次生物	魚類(フナ、メダカ、タナゴ類)	➡	事前調査(夏季1種、秋季2種)と中長期(夏2種)で同等。	➡	対照地区(約2種)と同等。
	哺乳類(カヤネズミ)	➡	短期3年にカヤネズミが確認されたが、中長期では確認なし。		—
	鳥類(オオヨシキリ)	➡	短期2年から中長期まで継続的にオオヨシキリの飛翔を確認。		—
評価			★★★		★★★★

■ R4年度調査結果

■評価

【場の形成状況】

- 対照地区と比較して、**被度と密度が高く、ヨシ原が形成**されている。

【生物の生息状況(H29年度調査結果)】

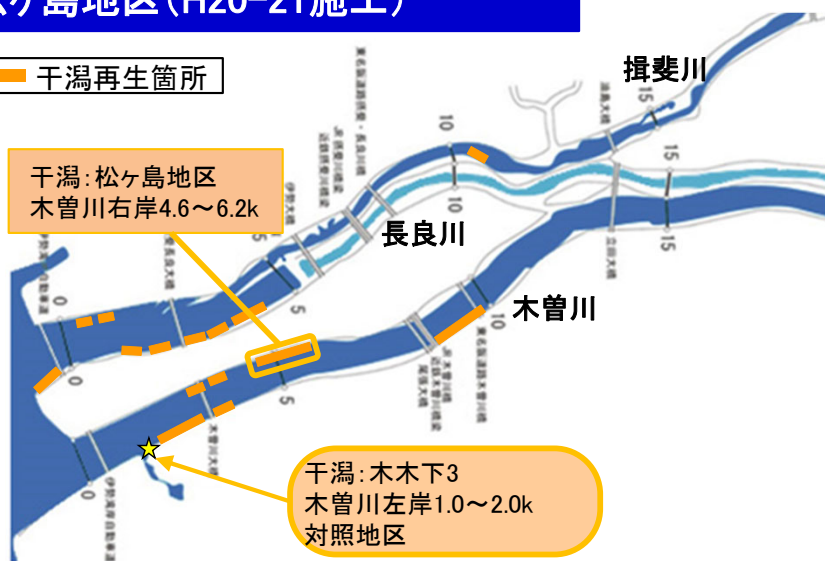
- 短期3年にカヤネズミが確認されたが、中長期では確認されていない。
- 短期2年から中長期まで継続して、オオヨシキリが確認されている。
- 対照地区と比較して、魚類、底生動物の種数は同等、昆虫類は多い。
- 以上のことから生物の**生息場として機能**していると考えられる。

干潟再生箇所の評価(松ヶ島地区) - 中長期モニタリング -

松ヶ島地区 (H20-21施工)

干潟再生箇所

干潟: 松ヶ島地区
木曾川右岸4.6~6.2k



干潟: 木木下3
木曾川左岸1.0~2.0k
对照地区

◆ 調査年度

事前	短期	中長期
H19	H22-24	H29、R4

◆ 整備内容

整備年度	整備内容
平成20年	水制工 2基
平成21年	水制工 7基



比較対象	【参考】事前調査との比較		中長期モニタリングの評価		
場の形成状況					
測量 (干潟長)	➤	整備後(水制工設置)に干潟長が約10m→35m程度まで増加し、干潟が維持されている。	➤	整備後(水制工設置)に干潟長が約10m→35m程度まで増加し、干潟が維持されている。	
生物の生息状況					
低次生物	底生動物 (ヤマトシジミ)	➤	個体数は事前調査時から増加。	➤	個体数は对照地区より多い。
	底生動物 (ゴカイ類)	➤	個体数は事前調査時から増加。	➡	個体数は对照地区と同等。
高次生物	魚類 (ハゼ、カレイ類)	➡	事前調査時(夏季2、秋季5種)からと同等(夏季2種)。	➤	对照地区(約5種)より少ない。
	鳥類 (シギ、チドリ、サギ類)	➤	事前調査時から種数、個体数ともに増加。	—	—
評価	★★★★		★★★★		

■ R4年度の評価結果

■ 評価

【場の形成状況】

- 整備後、干潟長が増加している。
- 干潟は**継続して維持されている**。

【生物の生息状況】

- 对照地区と比較して、魚類の種数は少ないが、底生動物のうちヤマトシジミの個体数は多く、ゴカイ類の個体数は同等である。以上のことから、生物の**生息場として機能している**と考えられる。

干潟再生箇所の評価(福豊地区) - 中長期モニタリング -

福豊地区 (H23-26、H29-30施工)

干潟再生箇所

干潟: 福豊地区
揖斐川左岸2.9~3.7k

干潟: 木揖下3(城南)
揖斐川右岸1.0~2.0k
対照地区

干潟再生箇所



調査年度

事前	短期	中長期
-	H27-29	R4

整備内容

整備年度	整備内容
平成23年	水制工 1基
平成24年	水制工 1基
平成26年	水制工 1基
平成29年	養浜 1箇所



比較対象	【参考】事前調査との比較	中長期モニタリングの評価
場の形成状況		
測量 (干潟長)	整備後(水制工設置、養浜)、干潟は形成されていない。H29年の養浜後、投入した土砂は一部残るのみとなっている。	整備後(水制工設置、養浜)、干潟は形成されていない。H29年の養浜後、投入した土砂は一部残るのみとなっている。
生物の生息状況		
低次生物 底生動物 (ヤマトシジミ)	個体数は事前調査時から減少。	個体数は対照地区と同等。
底生動物 (ゴカイ類)	個体数は事前調査時から減少。	個体数は対照地区より少ない。
高次生物 魚類 (ハゼ、カレイ類)	短期1年(夏季、秋季2種)から減少(夏季0種)。	対照地区(約4.5種)より少ない。
鳥類 (シギ、チドリ、サギ類)	短期1年と種数、個体数ともに同等。	—
評価	★	★

□ R4年度の評価結果

評価

【場の形成状況】

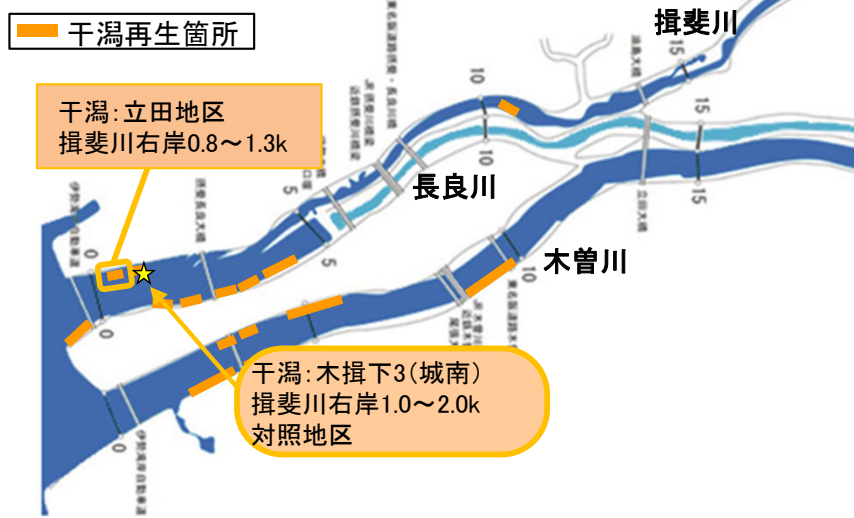
- 整備後、干潟は**形成されていない**。
平成29年に養浜が行われたが、投入した土砂は一部残るのみとなっている。

【生物の生息状況】

- 対照地区と比較して底生動物のヤマトシジミの個体数は同等であるが、魚類の種数及び底生動物のゴカイ類の個体数は少ない。
- 以上のことから、生物の**生息場として十分に機能していない**と考えられる。

干潟再生箇所の評価(立田地区) -短期モニタリング2年-

立田地区(H26-R2施工)



◆調査年度

完成	短期	中長期
H27-28	H30-R1、R4	-

◆整備内容

整備年度	整備内容
平成25年	水制工 1基
平成26年	水制工 1基
平成27年	水制工 1基
平成29年	養浜 2箇所
平成31年	養浜 2箇所(追加)
令和2年	養浜 2箇所(追加)



比較対象	短期モニタリングの評価		【参考】対照地区との比較		
場の形成状況					
測量 (干潟長)	➡	整備後(水制工設置、養浜)干潟は形成されている。養浜箇所では、干潟長40m程度の干潟が維持されている。	➡	—	
底質 (粒度組成、強熱減量、COD、全硫化物)	➡	構成材料の割合は水制完成直後の調査時と同等で泥分率が低い。水制完成直後の調査時よりCOD、全硫化物は低下し、水産用水基準以下。	➡	—	
生物の生息状況					
低次生物	底生動物 (ヤマトシジミ)	➡	個体数は水制完成直後の調査時と同等。	➡	個体数は対照地区と同等。
	底生動物 (ゴカイ類)	➡	個体数は水制完成直後の調査時より減少。	➡	個体数は対照地区と同等。
評価	★★★		★★★		

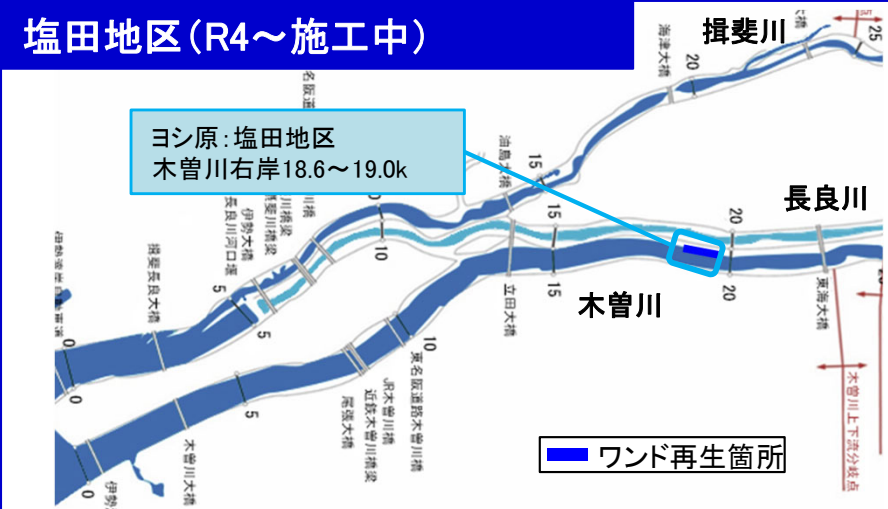
□ R4年度の評価結果

■評価

- 【場の形成状況】
- 整備後、干潟は**形成されている**。
 - H29年以降の養浜後、投入した土砂が維持されている。
- 【生物の生息状況】
- 事前調査と比較して底生動物のゴカイ類の個体数は少ないが、ヤマトシジミの個体数は同等である。
 - 以上のことから、生物の**生息場として機能**していると考えられる。

【参考】ワンド再生地区(塩田地区) -事前調査-

塩田地区(R4~施工中)



◆調査年度

事前	短期	中長期
R3-R4	-	-

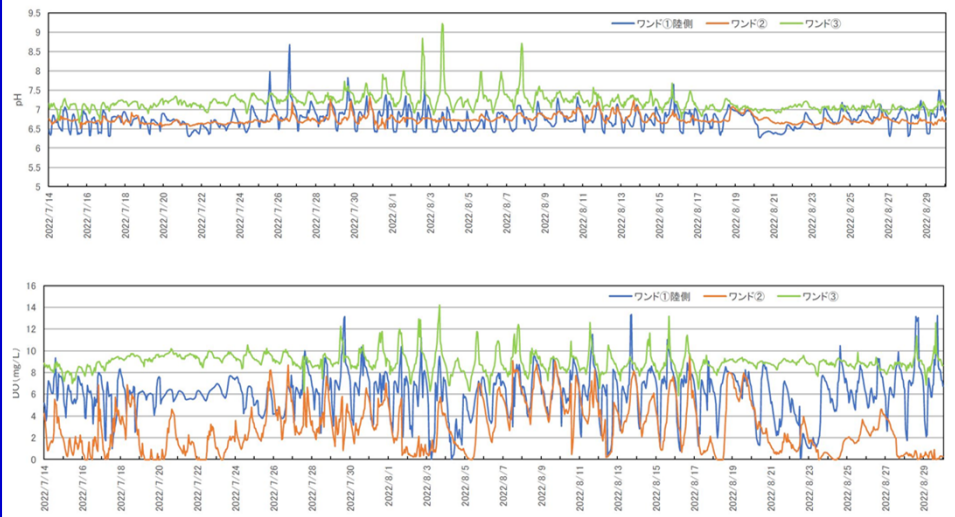
◆整備内容

整備年度	整備内容
(令和元年)	坂路造成 (ワンド再生箇所③)
令和3年	樹木伐採 (ワンド再生箇所③)



◆水質調査結果

- pH は、概ね6.5~7.5 の範囲で、ワンド再生箇所③で一時的に9.0を超える値となったが、ワンド再生箇所①陸側及び②では9.0を超えることはなかった。
- DOは、概ねワンド再生箇所①陸側で2~10mg/L、ワンド再生箇所②で0~8 mg/L、ワンド再生箇所③で6~10mg/L の範囲となった。(ワンド再生箇所②のDOの低下は現在原因の精査を実施中となっている)
- pH やDOの日変動は、昼間は植物プランクトンや藻類の光合成による酸素供給、夜間は呼吸による酸素消費の影響と考えられる。

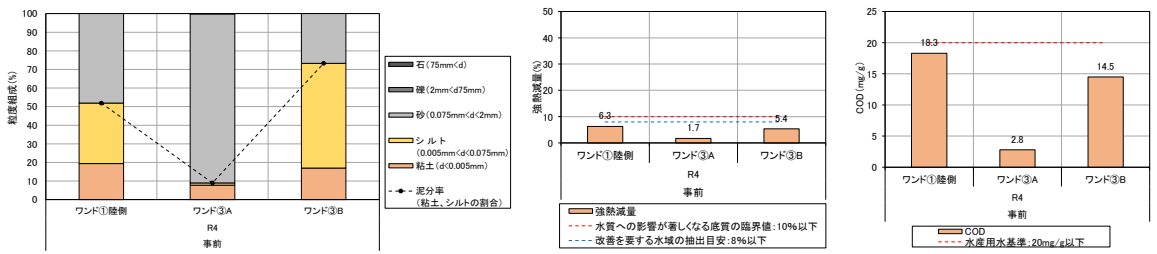


水質調査地点

- 鉛直分布把握+連続観測
- 鉛直分布のみ
- 底質調査地点

◆底質調査結果

- 泥分率は、ワンド再生箇所③のワンドAを除く2地点で50%を超えていた。
- 強熱減量、COD、全硫化物は、すべての地点で基準値以下であった。



◆魚類調査結果

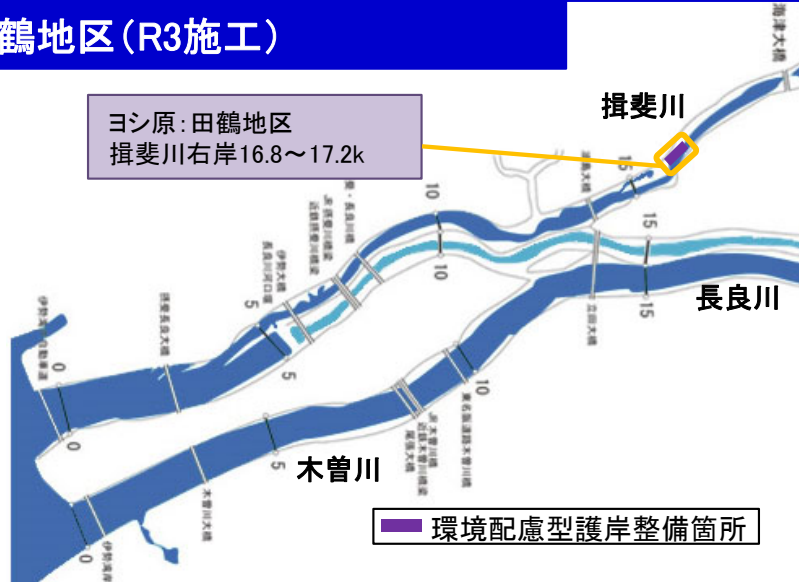
- R4年調査で確認された魚類は6目7科12種で、タナゴ類は、外来種のタイリクバラタナゴが確認された。

◆底生動物調査結果

- R4年調査で確認された底生動物は10目13科24種で、二枚貝はシジミ類が1種確認された。

【参考】環境配慮型護岸整備(田鶴地区) - 事後モニタリング1年 -

田鶴地区 (R3施工)



◆調査年度

事前	事後
R2	R4

◆整備内容

整備年度	整備内容
令和3年	環境配慮型護岸整備(ふとんかご)



R4年撮影

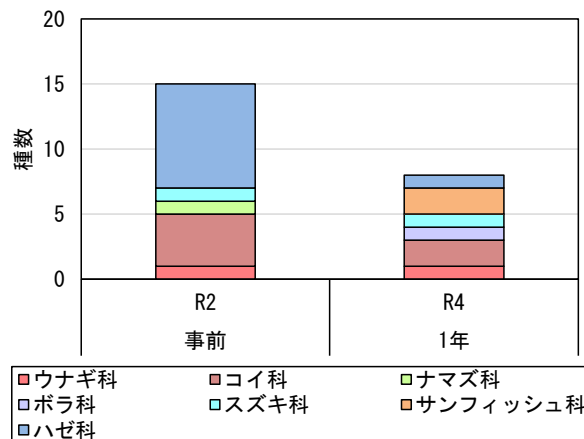


整備箇所

← 流下方向

◆魚類調査結果

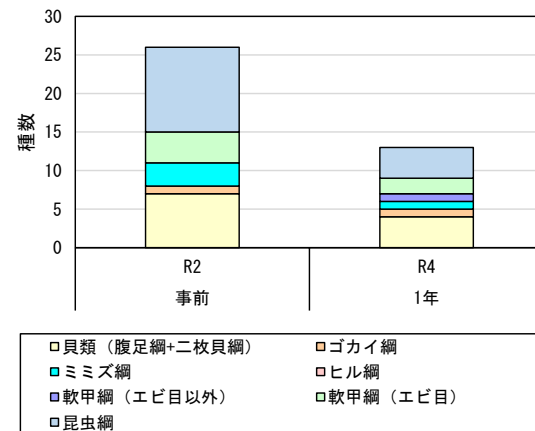
- ・ 事前調査ではヤナギ科、ビリンゴ等の3目5科15種が確認された。
- ・ 事後1年調査ではヤスズキ、マハゼ等の4目6科8種が確認された。
- ・ 事後1年調査ではブルーギルやオオクチバスが確認された。
- ・ 整備前後では、ハゼ類の確認種数が減少している。



分類群別確認種数

◆底生動物調査結果

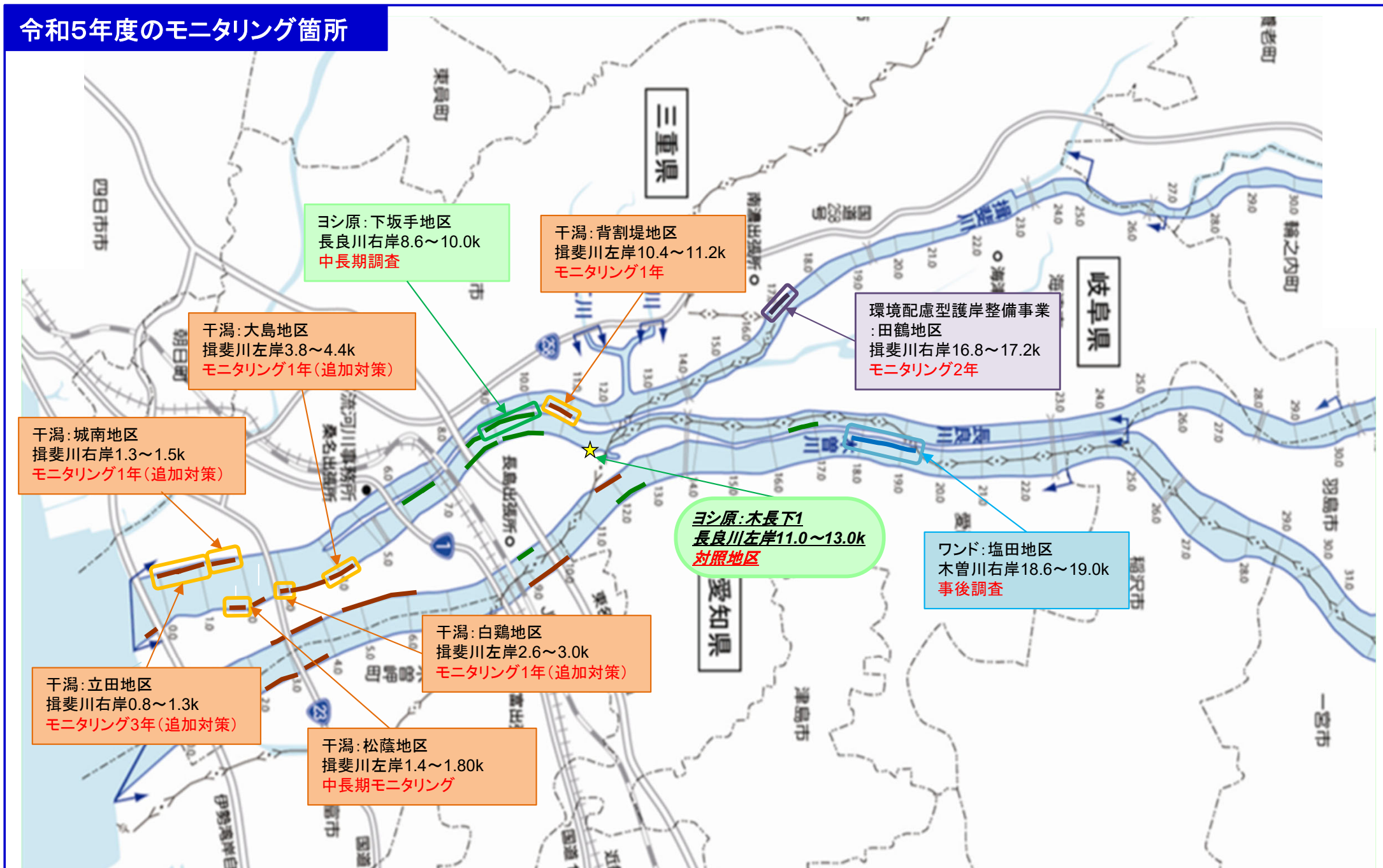
- ・ 事前調査では、ヒメタニシやエラミミズ等6綱11目14科27種が確認された。
- ・ 事後1年調査では、ヒメタニシやシジミ属等5綱7目9科14種が確認された。
- ・ 整備前後では、昆虫類の確認種数が減少している。



分類群別確認種数

令和5年度 モニタリング箇所

令和5年度のモニタリング箇所



令和5年度 モニタリング実施項目

■自然再生事業実施箇所について、自然再生計画書に基づいたモニタリングを実施しており、令和5年度は下記のとおり実施する。

令和5年度の調査地区・調査項目・調査時期・調査回数

調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	ヨシ生育調査	植物	
ヨシ原	調査時期	—	—	8月	水文水質観測のデータ等を活用	8月	8月	8月	—	8月	—
	事後調査	中長期	下坂手地区	長良川右岸 8.6～10.0k	1回(横断、UAV、 コドラート地盤高)	—	1回	—	—	1回	—
		—	対照地区	長良川左岸 11.0～13.0k	1回(コドラート地盤 高のみ)	—	1回	—	—	1回	—
調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	ヨシ生育調査	植物	
干潟	調査時期	—	—	春季～夏季	水文水質観測のデータ等を活用	夏季～秋季	—	8～9月	干潟再生地区は該当しない	干潟再生地区は該当しない	—
	事後調査	1年 (追加対策)	大島地区	揖斐川左岸 3.8～4.4k	1回(横断、UAV)	—	1回	—	1回	—	—
		1年	背割堤地区	揖斐川左岸 10.4～11.2k	1回(横断、UAV)	—	1回	—	1回	—	—
		1年 (追加対策)	白鷄地区	揖斐川左岸 2.6～3.0k	1回(横断、UAV)	—	1回	—	1回	—	—
		中長期	松蔭地区	揖斐川左岸 1.4～1.8k	1回(横断、UAV)	—	1回	—	1回	—	—
		3年 (追加対策)	立田地区	揖斐川右岸 0.8～1.3k	1回(横断、UAV)	—	1回	—	1回	—	—
		1年 (追加対策)	城南地区	揖斐川右岸 1.3～1.5k	1回(横断、UAV)	—	1回	—	1回	—	—
調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	ヨシ生育調査	植物	
ワンド	調査時期	—	—	秋季	夏季	夏季	春季～夏季	夏季	7月	ワンド再生地区は該当しない	春季～初夏 秋季
	事後調査	塩田地区	木曾川右岸 18.6～19.0k	1回(横断、UAV)	連続観測・水位観測1ヶ月、 鉛直計測2回	1回	2季	1回	1回	—	植物相2季、 植生断面1断面、 植生図作成 (調査面積約3ha、樹木伐採後を想定)
調査区分	地区名	場所	測量	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	ヨシ生育調査	植物	
護岸整備	調査時期	—	—	8月	水文水質観測のデータ等を活用	—	8月	8月	—	—	—
	事後調査	2年	田鶴地区※	揖斐川右岸 16.8～17.2k	1回(UAVのみ)	—	—	1回	1回	—	—

※田鶴地区は環境配慮型の護岸整備を実施しており、自然再生計画書のモニタリング項目とは異なる対応を行っている。